

# 第二章 将来像及び基本方針



- 1. 将来像 \_\_\_\_\_ 4 4
- 2. 基本方針 \_\_\_\_\_ 4 4

## 1. 将来像

勝連城跡は、昭和 47 年（1972 年）に国指定史跡に指定、平成 12 年（2000 年）に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つとして世界遺産に登録されるなど、本市を代表する歴史遺産である。また、歴史文化の象徴としてだけでなく、城跡周辺の豊かな緑や、良好な景観など自然環境も魅力の一つである。さらに近年は、勝連城跡への来訪者が増加傾向にあることから、観光資源としても活かしていくことにより周辺地域さらには、うるま市の魅力向上につながると考えられる。

よって、本計画における将来像を次のように設定する。

### 肝高の歴史浪漫を感じる交流空間の創出

<将来像の考え方>

世界遺産である勝連城跡及び周辺地域を、うるま市の歴史文化の拠点として、また市民や来訪者など人々が交流し、文化・観光の振興に資する空間として整備を図る。

## 2. 基本方針

将来像を実現するために、基本方針として、以下の 3 つを設定する。

<b>歴史を感じる空間づくり</b>	<b>歴史・文化的資源を保全・活用する</b>
<p>国指定文化財の史跡及び世界遺産である勝連城跡は、沖縄県を代表するグスクの一つであり、本市においても最も広く知られた遺産であることから、その歴史・文化的資源を保全しながら、城壁や門等の復元を目指す。また、観光拠点及び学校教育・生涯学習の場として活用を図るために、博物館やグスクへのアプローチ道及び園路の整備等、質の高い観光拠点として施設整備を図る。</p> <p>さらに県道 16 号線沿道の無電柱化等による勝連城跡に向かうメインストリートにふさわしい雰囲気づくりを進める。</p>	
<b>自然を楽しむ空間づくり</b>	<b>自然環境を保全・活用する</b>
<p>勝連城跡及びその周辺には、ユビタをはじめとした良好な自然環境や多様な植生が残っていることから、その保全を図り、勝連城跡と一体となった整備・活用を図る。</p> <p>また、勝連城跡は本市のシンボルとなる優れた景観を有しており、城跡頂上からは 360°パノラマの絶景や、南風原や浜屋等の集落景観、ユビタ等の自然景観が見られることから、勝連城跡及びその周辺地域を含めた歴史及び自然景観の保全・活用を図る。</p>	
<b>交流を生み出す空間づくり</b>	<b>観光拠点としての整備・活用を図る</b>
<p>世界遺産である勝連城跡は、本市を代表する観光拠点の一つであることから、観光地としての活用及び機能の強化を図る。そのため、周辺地域と連動した観光ルート及び交通拠点づくり、勝連城跡への案内板・サイン表示の充実、飲食店やお土産品店等の商業施設の充実を図る。</p> <p>さらに、県内外に向けての情報発信の強化や、観光ガイド及び地域活性化に資する人材育成等の組織づくり、南風原集落の文化資源の活用、肝高の阿麻和利など勝連城跡を舞台としたイベントや祭りの開催など、ソフト面の充実を図る。</p>	

将来像及び基本方針、ゾーニング

市民ワークショップであがった将来像を参考

課題整理

<整備にあたっての視点>

a. 勝連城跡内の園路整備

城跡内の園路は、城へアクセスする際に急勾配が続く、また歩きにくく、滑る危険性があるなどの課題がある。今後、整備する際は勝連城跡の歴史的価値を保全しつつ、安全性・快適性を重視し、さらに体の不自由な方や高齢者の方へ配慮した園路の整備が求められる。また、城へのアプローチを強化するため、南風原御門の整備も検討する必要がある。

b. 資料館やその他城跡内の施設整備

資料館については、歴史・文化・自然の資料の充実を図りつつ、学校教育と生涯学習の振興に寄与し、憩いの場やミュージアムショップなど付帯施設の整備を検討する必要がある。その他、東屋等の休憩所の設置、城跡のライトアップ整備、南風原御門側への駐車場等の検討が必要である。

c. 県道16号線の整備

現在、城跡内へアプローチする際に、休憩所・駐車場から交通量の多い県道16号線を横断しなければならず、安全性に問題がある。よって、県道16号線の法線変更・付け替え等の可能性について検討し、休憩所・駐車場と一体となった整備を検討する必要がある。また、道路植栽の変更や電線地中化についても検討が望まれる。

d. 勝連城跡及びその周辺を含めた歴史的景観の保全と整備

沿道の電柱・電線等の工作物や建築物が、勝連城の歴史的な景観を阻害していると考えられることから、沿道の無電柱化や工作物・建築物の移設等の可能性について検討が必要である。

e. 勝連城跡や周辺の御嶽、聖域等歴史・文化資源の保全と整備

勝連城については、舎殿、城壁、門等の復元の可能性を検討する必要がある。周辺地域については、点在する歴史・文化資源の保全を図りつつ、その周辺の園路の整備や植生等の保全を検討する必要がある。

f. ユビタを保全・活用した一体的な整備

勝連城跡の北側にあるユビタは、良好な景観を有し、貴重な環境資源であることから、その保全・活用を図り、さらに勝連城跡と一体的な整備や、資料館と連携した体制づくりを検討する必要がある。

g. 城跡内及びその周辺における案内板・サインの設置

城跡内及び周辺地域において、案内板やサイン表示がまだ十分でない現状を踏まえ、今後、観光拠点として活用するためにも、案内板・サイン表示の充実が求められる。

h. 観光ルート及び観光者を対象とした特産物の販売拠点等の整備

世界遺産である勝連城跡は、本市の観光拠点として重要な役割を担っている。しかし、周辺地域において、県内外の観光者向けの飲食店や特産物の販売所が不足していることから、既存の商業施設の活用を含めた、観光者向けの商業施設等の充実が求められる。さらに、勝連城跡及び周辺の観光拠点（海中道路、伊計島等）と連動した観光ルートづくりの検討が必要である。

i. 勝連城跡を活用したイベントや広報・PR活動

勝連城跡は、世界遺産としての認知度はあるものの、その歴史的な背景についてはまだ十分に認知されていない状況である。今後、本市の観光拠点として、県内外に向けての情報発信を強化するとともに、きむたかの阿麻和利など勝連城跡を舞台としたイベントや祭り等について検討する必要がある。

j. 人材育成やガイド養成等の組織づくりの強化

勝連城跡のガイドは現在でも活動しているが、今後は観光ガイドに加えて、イベントや地域の活性化に資する人材の育成や組織づくりを強化して、勝連城跡一帯をうるま市の観光文化の拠点として形成を図ることが望まれる。

市民ワークショップ・専門部会・プロジェクトチーム会議

<将来像・キャッチフレーズ>

『肝高の歴史浪漫を感じる交流空間の創出』

世界遺産である勝連城跡及び周辺地域を、うるま市の歴史文化の拠点として、また市民や来訪者など人々が交流し、文化・観光の振興に資する空間として整備を図る。

<基本方針>

歴史を感じる空間づくり

歴史・文化的資源を保全・活用する

国指定文化財の史跡及び世界遺産である勝連城跡は、沖縄県を代表するグスクの一つであり、本市においても最も広く知られた遺産であることから、その歴史・文化的資源を保全しながら、城壁や門等の復元を目指す。また、観光拠点及び学校教育・生涯学習の場として活用を図るために、博物館やグスクへのアプローチ道及び園路の整備等、質の高い観光拠点として施設整備を図る。さらに県道16号線沿道の無電柱化等による勝連城跡に向かうメインストリートにふさわしい雰囲気づくりを進める。

自然を楽しむ空間づくり

自然環境を保全・活用する

勝連城跡及びその周辺には、ユビタをはじめとした良好な自然環境や多様な植生が残っていることから、その保全を図り、勝連城跡と一体となった整備・活用を図る。また、勝連城跡は本市のシンボルとなる優れた景観を有しており、城跡頂上からは360°パノラマの絶景や、南風原や浜屋等の集落景観、ユビタ等の自然景観が見られることから、勝連城跡及びその周辺地域を含めた歴史及び自然景観の保全・活用を図る。

交流を生み出す空間づくり

観光拠点としての整備・活用を図る

世界遺産である勝連城跡は、本市を代表する観光拠点の一つであることから、観光地としての活用及び機能の強化を図る。そのため、周辺地域と連動した観光ルート及び交通拠点づくり、勝連城跡への案内板・サイン表示の充実、飲食店やお土産店等の商業施設の充実を図る。さらに、県内外に向けての情報発信の強化や、観光ガイド及び地域活性化に資する人材育成等の組織づくり、南風原集落の文化資源の活用、肝高の阿麻和利など勝連城跡を舞台としたイベントや祭りの開催など、ソフト面の充実を図る。

<ゾーニング>

行政主体

勝連城跡ゾーン

-史跡指定区域を中心としたゾーン-

- ① 歴史的環境及び景観の保全・活用
- ② 城壁や門等の復元整備
- ③ 勝連城跡へのアプローチ道や園路等の整備
- ④ 案内板・サインの設置
- ⑤ ライトアップの整備

景観連携軸

- ① 無電柱化等による良好な沿道景観の創出

拠点ゾーン

-ユビタを中心とした周辺一帯のゾーン-

- ① 文化観光施設等への教育機能の導入
- ② 地域特産物等の販売拠点
- ③ 交流型機能の導入
- ④ ユビタの自然環境及び景観の保全
- ⑤ ユビタを活用したレク機能の導入
- ⑥ 駐車場の拡大整備等交通機能の充実

民間活力による誘導・連携

観光誘導ゾーン

-店舗、民泊など宿泊機能の誘導を図るゾーン-

- ① 飲食店や店舗等の誘導
- ② 宿泊機能の誘導
- ③ 駐車場及び休憩所の整備
- ④ 文化財を保全・活用したまち歩きの誘導
- ⑤ 南原漁港の活用

景観連携ゾーン

-良好な景観の保全育成を図るゾーン-

- ① 勝連城跡に配慮した景観づくり
- まちなみ保全エリア
- ① 文化財を保全・活用したまち歩きの誘導



ゾーニング図

**まちなみ保全エリア**  
 ①文化財を保全・活用したまち歩き誘導

**景観連携ゾーン**  
 ①勝連城跡に配慮した景観づくり

**景観連携軸**  
 ①無電柱化による良好な沿道景観の創出

**観光誘導ゾーン**  
 ①飲食店や店舗等の誘導  
 ②宿泊機能の誘導  
 ③駐車場及び休憩所の整備  
 ④文化財を保全・活用したまち歩き誘導  
 ⑤南原漁港の活用

**拠点ゾーン**  
 ①文化観光施設等への教育機能の導入  
 ②地域特産物等の販売拠点  
 ③交流型機能の導入  
 ④ユビタの自然環境及び景観の保全  
 ⑤ユビタを活用したレク機能の導入  
 ⑥駐車場の拡大整備等交通機能の充実

**勝連城跡ゾーン**  
 ①歴史的環境及び景観の保全・活用  
 ②城壁や門等の復元整備  
 ③勝連城跡へのアプローチ道や園路等の整備  
 ④案内板・サインの設置  
 ⑤ライトアップの整備

ゾーニング凡例

実線	行政主体	史跡指定区域
破線	民間主体	勝連城跡バッファゾーン